

「ラボ交換型生命医科学研究コンソーシアムの立体展開」

プログラム参加の報告書

2015.9.7～10

早稲田大学大学院 修士2年 小林由香里

シンガポール国立大学の **Mechanobiology Institute(MBI)**では、研究室を見学させていただきました。Mechanobiology という分野であるため、様々な分野から学生や研究者が集まり、意見を出し合いながら研究を進めている、というお話を伺いました。実際に研究室を見てみると、一つ一つの顕微鏡に対し十分なスペースが設けられ、個室になっていました。その特殊な顕微鏡を学生が一人で使っていることに、施設の充実さを感じました。自分が使っている顕微鏡に責任をもち、他の顕微鏡を使いたい時には、お互いに使い方を教えあっていると学生の方が教えてくれました。研究室には勉強をするための一人一人のブースもありました。集中して実験や勉強を行い、周りの仲間と協力することで疑問や問題を解決できる環境が確立しているように感じました。

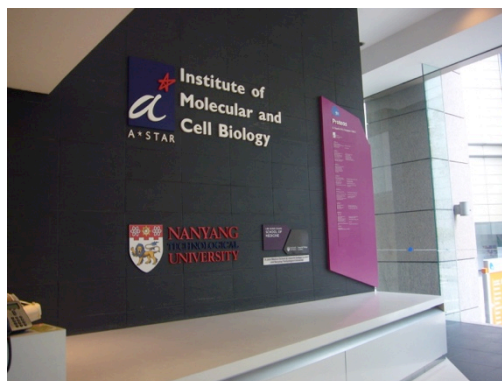
Biopolis では、早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所(WABIOS)を見学しました。**Biopolis** には WABIOS 以外にも製薬会社などの研究所が多く集まっているようでした。そのような場所に早稲田の研究所があることを初めて知り、日本の学生がもっと活用し、世界の様々な研究環境を知ることができるのではないかと思います。



シンポジウムでは、細胞生物学や生物物理学、化学、微生物などについての講演が英語で行われました。内容が専門的であることや、様々な国の方が話すこともあり、気を緩めると理解することができませんでした。今なんて言ったのだろうと思っている間も講演は進み、質疑応答が行われていました。シンポジウムに

集まっていた方々が、英語という共通言語で意見交換をしていたことが単純にすごいと感じました。自分が言いたいことを英語で的確に伝えられるようになりたいと改めて感じました。

また他の日には、Biopolis にある南洋理工大学の田代先生の研究室を見学させていただきました。田代先生の研究室では、電気生理学とオプトジェネティクスの技術を使って海馬回路の機能を知ることを目的に実験が行われています。田代先生は、KO mouse を作るのではなく、ウイルスによる遺伝子操作で、正常な mice の一部の細胞に光応答タ



ンパクを発現させ、変化をみることで、着目した分子の本当の役割を知りたいとおっしゃっていました。マルチユニットレコーダーなど初めて見るものもありましたが、同じ機器も多くあり、国は違っても同じように実験が行われていると感じました。また、新しい技術が実験に用いられていることを知りました。脳神経の分野ではそういった技術を組み合わせて研究が進められていることが多いのではないかと、田代先生の研究室見学からも感じました。

